

病名	主な症状
新型コロナウイルス	発熱、咳や痰、咽頭痛、鼻汁、呼吸困難感、倦怠感、味覚・嗅覚障害、頭痛、筋肉痛、消化器症状 など
インフルエンザ	発熱（38℃以上の高熱）、頭痛、筋肉痛、関節痛、全身倦怠感、咳、咽頭痛 など
風邪	くしゃみ、鼻汁、咽頭痛、微熱、発熱、咳、倦怠感 など

図 3

### < 検査の推奨期間 >

新型コロナ感染症は、発症から 2 日目～9 日以内が通常。インフル. の場合は、検査で陽性が出る期間は発症後 1～5 日頃で **24 時間以内は陽性が出づらい傾向**がある。但し 抗インフル. 薬が処方された場合、発症から 48 時間以内の服用が推奨されています。そのため、**症状が出始めてから 24 時間～48 時間以内に医療機関を受診**し、インフル. 検査を受けることが望ましい。風邪は通常は検査しませんが、溶連菌感染症やインフル.（疑）などの場合には検査をします。

### < 対応と薬 >

対応方法と薬は以下の通りです。

病名	対応	薬（一般名）
新型コロナウイルス	自宅療養、酸素吸入、重症者は入院	レムデシビル、カシリピマブ/イムデビマブ（抗体カクテル療法）、バリシチニブ
インフルエンザ	安静、解熱剤の使用、水分補給、必要に応じて入院	抗インフルエンザウイルス薬（オセルタミビルリン酸塩・ザナミビル水和物・ペラミビル水和物注射薬・バロキサビル マルボキシル など）
風邪	安静、解熱剤の使用、十分な休養	アセトアミノフェン、イブプロフェンなど、症状に応じた薬（細菌感染の可能性が高い場合には抗菌薬）

図 4

尚 インフル. や新型コロナ感染症にかかった子供が出席停止期間を経過して登校する際、再受診や検査は通常必要ありません。但し 治療開始から 3～4 日経過しても解熱しない場合や風邪の場合で 4～5 日以上発熱が続く場合は、再受診する必要があります。